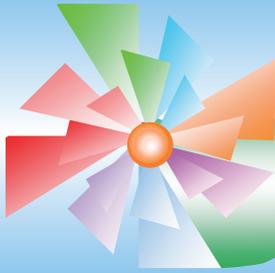


かざぐるま



2014年 4月発行



地域医療支援病院 市立札幌病院



平素より、地域医療機関の皆さまには大変お世話になっております。市立札幌病院は新しい病院事業管理者の元に平成26年度をスタートいたしました。今回、「かざぐるま臨時号」を発刊し皆様にご挨拶申し上げます。

病院事業管理者等新任役職者・医師ご紹介

札幌市病院事業管理者・院長	……………	関	利盛
市立札幌病院副院長	……………	晴山	仁志
札幌市病院局経営管理室長	……………	渡邊	多加志
市立札幌病院 理事	……………	甲谷	哲郎
市立札幌病院 理事	……………	西川	秀司
市立札幌病院 理事	……………	三澤	一仁

市立札幌病院新任医師

市立札幌病院

基本理念

すべての患者さんに対してその人格信条を尊重し、つねに“やさしさ”をもって診療に専心する。

運営方針

- ①患者さんの人格を尊重し、患者さんに信頼される医療を行います。
- ②地域医療機関との連携を強化して、地域医療の充実・発展に貢献します。
- ③急性期医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- ④自治体病院として他の医療機関では対応が困難な政策医療を提供します。
- ⑤医療技術の向上を図り、優れた医療従事者を育成します。
- ⑥全職員が連携し、信頼しあう、明るく誇りの持てる「チーム市立札幌病院」をつくります。
- ⑦公営企業として健全な財政運営を図ります。

札幌市病院事業管理者・市立札幌病院長 就任ご挨拶

病院事業管理者
院長 せき としもり
関 利盛



2014年4月1日付けで、札幌市病院事業管理者、市立札幌病院長を命じられました関です。就任にあたり皆様へ一言ご挨拶申し上げます。

市立札幌病院は150年近くにわたって、札幌市内の基幹総合病院として安全で良質な医療の提供を目指してきました。この間、救命救急センター（三次）を中心とした急性期医療の提供や、総合周産期母子医療センター（道央圏唯一）の指定とNICUの増床を行い新生児・周産期医療の充実を図りました。また、国の癌対策として地域がん診療拠点病院の指定も受け、多くのがん患者さんの治療や緩和医療にも取り組んでいます。更に身体合併症を有する精神疾患患者さんに対しては精神医療センター（東北以北唯一のスーパー救急・合併症病棟）を設置するなど、常に第一線で市民の皆様や時代の要請に応えて高度な医療を提供すべく努力しています。そのため最新の医療器械、たとえば320列CT、強度変調放射線治療装置、ロボット支援装置 da Vinciなどの導入を行っています。

★市立札幌病院が目指すもの

私たちの市立札幌病院の目指しているところは急性期病院であり、地域完結型医療の確立であります。急性期病院の役割は、疾患を有する患者さんの治療を担当することです。かかりつけの先生の紹介状を持ってきていただき、その治療に当たり、治療終了後は紹介元の地域の診療所で外来通院を行い、何か異変があった時には市立病院に来ていただく。そのためには、

- ①地域の開業の先生や、診療所の先生に向けて、私たちが持っている**医療資源の公開と医療資源の共同利用の促進**を図る（開放病床、画像検査など）
- ②治療を終えた患者さんは紹介元の医療機関で経過観察していただく（**逆紹介**）
- ③入院が必要な患者さんにはいつでも対応できるようにしておく（**救急車両の受け入れ**）
- ④がん患者さんに対しては診療連携を図る（**がん診療連携バスの利用**）

- ⑤自宅退院が困難な患者さんの場合、本人や家族から希望を聞き取り、できるだけ希望に近い医療機関などに転院調整する
- ⑥医療処置等を継続し在宅療養する患者さんが安全、安心して生活できるよう調整する（**退院支援**）
- ⑦身体合併症を有する**精神疾患患者さんに対しても必要な急性期医療を施す（精神医療センター）**などを行っていく必要があります。

★★質向上を図り地域に信頼され貢献する病院に

当院が提供する医療は安全で良質な急性期医療です。そのためには、地域の先生たちとの連携は不可欠であり、当院で治療後はかかりつけの先生方に経過観察をお願いしております。以上のような取り組みが評価されて、2013年8月には自治体病院として道内初の「地域医療支援病院」の承認を受けました。これを励みに、患者さんや地域の医療施設から信頼されて連携できるように職員一同更に研鑽していきます。

また当院は臨床研修指定病院として次世代を担う医療者の育成にも積極的に取り組んでおり、2014年度からは臨床研修センターを立ち上げて、研修医の育成にあたることとしております。また看護部とも協力して看護教育にも力を入れ、認定看護師の育成、福利厚生などにも取り組んでいます。次世代の医療者育成は、2025年問題を控えて喫緊の課題です。

ご支援、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

地域医療連携は、お互いの顔の見える連携が必要です。私は院長となりましたが、これから地域連携センター長としても活動していくつもりです。市民の皆様や、地域の医療従事者から信頼される市立札幌病院を目指し、強固な連携を創り上げたいと考えています。今後とも、ご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

副院長就任 ご挨拶

このたび市立札幌病院副院長を拝命しました産婦人科の晴山と申します。日頃、市立札幌病院への温かいご支援とご理解をいただきありがとうございます。自己紹介させていただきます。

★プロフィール

私は道南の江差町で生まれました。父親の転勤で5歳の時に、現在の北海道立近代美術館の場所に転居しました。11月の初雪降る寒い札幌でした。場所は一等地ですが、超古い木造の2軒続きの長屋の道庁公宅を見てさらに寒くなりました。理由は不明ですが両親は幼稚園に入学させないで、そのためか社会生活に不慣れで、いきなりの小学校登校は緊張の連続でした。小学校は当時木造の桑園小学校であり、市立札幌病院に近い現在の場所と同じです。小学校時代に元気な父親が突然虫垂炎穿孔から重症の腹膜炎になり、また肺結核で肺切除手術を受け生命の危機にさらされた記憶があります。このような衝撃的な出来事に遭遇して、何となく医師を目指し始めた出発点ではないかと思っています。

1968年に札幌医大に入学し、1974年に卒業しました。大学生時代は陸上部に入りました。円山公園までの毎日の走り込みと小中学時代の長距離の徒歩通学が、現在の



病院局経営管理室長就任 ご挨拶

このたび病院局経営管理室長を命ぜられました、渡邊と申します。

今回の職場は通算で10か所目になりますが、市立札幌病院での勤務は初めてです。

現在は業務を十分に理解するため、勉強の日々ですが、これまでの経験を踏まえ、健全な病院運営に尽力してまいりたいと考えております。

さて、わが国では従来から、病院は患者さんが自由に選ぶことのできるものでしたが、私が幼少のころは、少し調子が悪いという程度なら、多くの場合、近所の診療所を受診したように記憶しています。

しかし、近年は交通状況の良さもあってか、多くの診療科を持つ病院のほうが様々な疾患に対応できるとお考えになって、軽症の場合でも最初から当院のような総合病院を受診される患者さんも多いようです。

こうした状況から、特定の病院への患者さんの集中による待ち時間の長さや、コンビニ受診とも言われるような夜間急病センター利用の増加など、医療を取り巻く社会問題

副院長

はれやま ひとし

晴山 仁志
(産婦人科)



丈夫な足腰と逃げ足の速いことに繋がっているのではないかと勝手に思っています。当時の大学は学園紛争の影響もあり、卒業後は大学医局に入らずに、直接国立札幌病院（現在の北海道がんセンター）産婦人科に12年間勤務しました。

1986年に北海道大学産婦人科に入局し、1987年から帯広厚生病院に5年間勤務しました。1991年に突然、当時の藤本征一郎教授から北海道大学産婦人科勤務を勧められ、1995年に講師に就任し、1997年から市立札幌病院産婦人科部長として勤務しています。

★信頼される地域医療支援病院を目指して

産婦人科は若い人から超高齢者までを対象とし、道央圏の周産期母子医療センター、子宮脱センター、地域がん診療連携拠点病院として多彩な診療実績があります。地域の医療機関に安心して連携し、信頼される地域医療支援病院として頑張っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



札幌市病院局
経営管理室長

わたなべ たかし
渡邊 多加志



は深刻化しております。

これらの課題への対応のためには、医療・介護機能の再編の考え方からも、当院のような急性期を担う病院と地域に根付いた病院・診療所との役割の明確化や適切な連携、さらには在宅医療の充実が不可欠であり、地域のかかりつけ医の皆さまの役割は、今後ますます重要になるものと考えております。

私から申し上げるまでもなく、超高齢社会を迎え、市民が住み慣れた地域での暮らしを安心して継続するためには、医療サービスの安定的な提供が必須条件であり、当院としても、質の高い医療を提供しつつ、地域医療支援病院の役割を十分に発揮するために、医療機器の共同利用や公開講座の充実など、連携病院の皆さまに役立つ取り組みを継続してまいります。

連携病院の皆さまにおかれましては、引き続き当院との連携を深めていただき、地域完結型医療の実現に向け、お力添えをいただけますよう心からお願い申し上げます。

理事就任 ご挨拶



理 事

こうや てつろう
甲谷 哲郎
(循環器内科)

4月1日付けで、理事を拝命いたしました循環器内科の甲谷です。

病院運営に直接関わる責任重大な立場となり、身も心も引き締まる思いです。この場をお借りして、ご挨拶させていただきます。

私の経歴は、札幌南高校を卒業後、北海道大学医学部へ入学し、卒後は北大循環器内科へ入局、同時に大学院へ進学しました。大学院修了後、昭和58年に市立札幌病院救急医療部(現「救命救急センター」)へ1年間勤務しました。その後、アメリカ合衆国マイアミ大学医学部薬理学教室へ留学し不整脈の基礎的研究を行いました。帰国後は、北大循環器内科で、助手・講師・助教授として、合わせて約15年間、研究・教育・診療に従事しました。平成14年から、NTT東日本札幌病院へ循環器内科部長として約9年勤務後、平成24年4月より当院循環器内科へ部長として勤めて現在3年目に入ったところです。このたび、理事に就任いたしました。併せて、循環器センター長・循環器内科部長も兼任いたします。心臓血管外科と力を合わせて心血管系疾患診療体制のさらなる発展に努力いたします。また、臨床研修センター長も拝命いたしました。若い研修医を病院全体で育てるという伝統をより強固に構築するように努力したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



理 事

にしかわ しゅうじ
西川 秀司
(消化器内科)

このたび理事を拝命いたしました消化器内科の西川と申します。

私は生まれも育ちも札幌で、1984年に北海道大学を卒業し第3内科に入局いたしました。宮崎教授、浅香教授に指導を受け、1992年から当院に勤務しております。今年で23年目となりますが、この間、地域の先生には多くの患者さんを紹介していただき、また、受け入れていただき、大変感謝しております。厚生労働省の指導もあり、今後ますます地域連携医療機関との紹介、逆紹介が重要となってまいります。消化器内科は4月から永坂医師が部長となり、新たに医長として葭内医師、後期研修医として板谷医師が加わりました。総勢11名で大幅にパワーアップしております。今まで以上の連携を進めていくつもりですので、重症患者さんはもちろんのこと、なにか気になる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介してください。診断、治療後はできるだけすみやかに紹介元での通院治療を依頼させていただきます。

今後とも市立札幌病院、および消化器内科へのご支援、ご指導よろしくお願いいたします。



理 事

みさわ かずひと
三澤 一仁
(外科)

この度市立札幌病院理事を拝命しましたのでご挨拶申し上げます。

本年は診療報酬の改定年と消費税が8%と増税される年でもあり、その責任の重大さを感じております。

私は北海道大学医学部を卒業と同時に北大第一外科に入局し1年間病棟勤務した後は大学と道内では苫小牧市立病院、中標津町立病院、旭川厚生病院、帯広協会病院、美幌市立病院、札幌社会保険総合病院などの関連病院に勤務し、平成10年から現在の市立札幌病院外科に赴任しています。途中米国に1年3か月留学しました。当院に着任し丸16年が経過しました。10年ひと昔と言われていますが、昨今の世の時間の経過は以前にも増して早いものです。当院を赴任当初と比べると当時とは変貌し、まったく別の病院になったと思われま。ハード面では建物はほとんど変化がありませんが、電子カルテが導入されたことが大きな出来事でした。ソフト面では人が変わり、様々な委員会が立ち上がってシステムが変わり、病院内の職員の意識が変わってきました。この中には厚生労働省の指針や診療報酬の改定などで受動的に積極的に変化してきたものが多いと思います。この変化について生き残っていくことが当院が成長していくことだと思います。微力ではございますが当院のために力を注げればと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新

任

医

師

紹

介

《消化器内科》

医長 葎内 史郎(よしうち しろう)

《循環器内科》

医長 松井 裕(まつい ゆたか)

《リウマチ・免疫内科》

医長 片岡 浩(かたおか ひろし)

《産婦人科》

医長 白銀 透(しろがね とおる)

《耳鼻咽喉科・甲状腺外科》

医長 小崎 真也(こざき しんや)

副医長 小原 修幸(おばら のぶゆき)

副医長 佐藤 宏紀(さとう ひろき)

《精神科》

副医長 武村 史(たけむら ふみ)

一般職 林下 善行(はやした よしゆき)

一般職 石井 純(いしい じゅん)

一般職 嶋 香菜子(しま かなこ)

一般職 鹿野 智子(しかの ともこ)

一般職 菊地末紗子(きくち みさこ)

《新生児内科》

副医長 塩野 展子(しおの のぶこ)

一般職 越田 慎一(こしだ しんいち)

《外科》

副医長 皆川のぞみ(みながわ のぞみ)

副医長 葛西 弘規(かさい ひろのり)

《脳神経外科》

副医長 堀田 祥史(ほりた よしふみ)

《泌尿器科》

副医長 秋野 文臣(あきの ともしげ)

一般職 鈴木 英孝(すずき ひでたか)

《眼科》

副医長 岩崎 将典(いわさき まさのり)

《整形外科》

一般職 上杉 和弘(うえすぎ かずひろ)

《救命救急センター》

副医長 堤嶋 久子(さげしま ひさこ)

一般職 長間 将樹(ながま まさき)

一般職 高橋科那子(たかはし かなこ)

《皮膚科》

一般職 濱出 洋平(はまで ようへい)

《麻酔科》

副医長 堀口 貴行(ほりぐち たかゆき)

一般職 長谷川志生(はせがわ しお)

一般職 寺島 聡子(てらしま さとこ)

一般職 土岐 崇幸(とき たかゆき)

《歯科口腔外科》

一般職 片桐 行英(かたぎり ゆきひで)

非常勤嘱託医師

産婦人科 加藤 慧(かとう けい) 泌尿器科 富樫 正樹(とがし まさき)
新生児内科 服部 司(はっとり さとし)



臨床研修医

	診療科	氏名
後期研修医	放射線診断科	加藤 大貴(かとう ひろたか)
	循環器内科	南部 秀雄(なんぶ ひでお)
	皮膚科	宮内 俊成(みやうち としなり)
	心臓血管外科	安田 尚美(やすだ なおみ)
	泌尿器科	岩原 直也(いわはら なおや)
	呼吸器外科	椎谷 洋彦(しいや はるひこ)
前期研修医	ローテーション	大橋 一慶(おおはし いっけい)
		小原 尚(おばら ひさし)
		村西 雄貴(むらにし ゆうき)
		吉川 純平(よしかわ じゅんぺい)
		藤野 景子(ふじの けいこ)
		松田 千佳(まつだ ちか)
		高橋 明裕(たかはし あきひろ)
		吉川 剛平(よしかわ こうへい)

市立札幌病院ホームページもご利用ください。 <http://www.city.sapporo.jp/hospital/>

編集・発行



市立札幌病院 地域連携センター運営委員会(事務局：札幌市病院局 地域連携センター)
〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目
電話 代表 (011) 726-2211 FAX (011) 726-7928

